

行ってきました皆生大会

松田 知之

7月15日、ダメもとで応募した皆生からいただいた参加許可書を手にも、昨年引き続き性懲りもなく、梅雨明けのむし暑い皆生大会に参加してきました。鳥取県といってもあまり山陰地方に縁のない方には島根県がどっちだっけ、中海・宍道湖って???という感じでしょうか。



思い起こせば、25年前に4年ほどすごした思い出多き米子の地。近年はゲゲゲの鬼太郎ブームでわりとメジャーな観光地になりつつありますが、その昔、嫁をひろって学生時代を満喫していたころには温泉で有名な皆生がトライアスロン日本発祥の地で、なんか鉄人レースとか称してちょっとマゾ的なかわった人たちのお祭り、(失礼)真剣勝負・・・に四半世紀を経て自分が参戦するなど思いもよらぬこと。その嫁に「墓参りにはやっぱり年に1度は行かなあかんで」とぬけぬけと言いはなつて、ちゃっかりサポーターを確保。おまけに嫁の実家に泊まって宿泊費も食費も無料、送迎付きというこのうえない状態でレースに臨んだのであります。

競技説明会では公道を走行するのだから、今年からバイクにはベルをつけないと走らせへんよと言われ、アイアンマンでリフレクターまではずされたのに、とちょっとカルチャーショック的ローカルルールです。いまだにそのベルはついたままですが・・・。

今年は海が大荒れで、さすがに3m近い波高ではスイムが中止になり、スイムが大苦手の自分としてはラッキーデュアスロン? でも日本海テレビのレポーターお姉さんにレース前の感想をインタビューされて、「3km泳いでなんぼのもんやのにほんと残念です」などと、ぬけぬけとぬかしているシーンは果してテレビで映ったのでしょうか。

1ST ラン8kmではスイム会場横を走行です。テトラポットで砕け散る波を見て、こんなんで泳いでたらきっと二度と浮きあがれずに、カニの餌になってたやろなあ、と背中を冷たい汗が流れるのです。



お次は大山中腹までバイクでかけあがり、あとはジェットコー

スターと称されるアップダウンの連続のはずが、昨年は3回もパンクの憂き目に会い、泣きべそかきながらメカニックの方に助けていただいた哀しくも懐かしい山登りです。今年は頼むからパンクだけは堪忍してください、と霊峰の神様にお祈りしながら弓ヶ浜のトランジットに145km無事到着。

暑い皆生はラン勝負やで、などとうそぶいてみても交通ルール厳守、赤信号ではストップルールにどれほど救われたことか。当日最高気温35度は日本で2番目に暑かったのです。10kmほどランしたところで折り返してこられたトップの吉村選手や谷選手とすれちがい、身の程を思い知るのです。

しばし並走していただいた震災被災地からこられた方が、コース途中にある陸橋を前に「これはとってもおもしろいコースですね」と言われても笑う元気すら残っていないありさまなのに、膝はわらっているのです。いつもながらランのエイドは各駅停車。途中のエイドで親戚一同に応援を受け、なんとか作り笑顔でラン継続。地元の中高生のとっても熱い声援、サポートに感激しながらも、なにぶんふだんからKTCの練習会にも参加することなく、実力通りの結果ではありましたが、今年はなんとかまだ明るいうちにゴールできたのでありました。

結果 377/698位 11:47:08

(嫁:今年は1時間も早かったやん...そらスイムないしパンクして半泣きになることもなかったからなあ。もっと体重落として練習会でがんばらなあかと反省しきりでした。)